



2025年度大阪府訪問看護実践研修 教育ステーション事業実践報告

大阪府訪問看護ステーション協会

南河内ブロック担当

大阪府済生会富田林訪問看護ステーション

管理者 山下智寿



目標

1. 終末期ケアに着目し、ブロック内の訪問看護ステーションの受け入れ状況、医療ケア・看護ケアの現状把握を行い、ブロック内のステーションの意識の向上を期待。
2. ACP関連の研修にスタッフとともに参加し、実際の利用者との関りの場面で活用できる。



1.人生会議(ACP)支援実践人材育成研修(多職種対象)実施

• 5/24 富田林病院講堂

• 感想

目標人数: 50人
参加人数: 41人

- リアルに実体験でき、たくさんの気づきがあった。
- 思いを表出してもらうことが大切、聞く姿勢を学べた。



• 9/27 松原テラス(輝)

• 感想

目標人数: 50人
参加人数: 28人

- 聞きにくいことも、聞く力を養いたい。
- 早く結果をと思う気持ちが強く、思いを引き出すことの難しさを再確認できた。





2.終末期ケアに着目し、4回の研修を実施

目標人数：60名
参加人数：49名

1回目 7/26(土)

- 在宅医の医師を講師「在宅で看取るために」をテーマに講義依頼。
- 「訪問看護ステーションの現状と今後の展望」と題し、南河内ブロック内のステーション管理者へ事前のアンケート調査の結果を伝えた。
- グループディスカッション30分 意見交換「こんな支援がしたい」という話しの中から一番「いいね！」が多かった意見を発表とした。

2025年大阪府訪問看護実践研修事業
教育ステーション事業

終末期ケア を考える

定員
50名



日時

2025. **7.26** 土

対面（集合）研修

時間 13:30～15:00
(13:00受付開始)

場所

富田林病院2階講堂
(富田林市向陽台1-3-36)

対象

終末期ケアに関わる方

申込期限

2025.7.20



プログラム

■ ■ 「在宅で看取るために」

アイルほーむけあクリニック
園田 哲平 先生

■ ■ 「訪問看護ステーションの現状と今後の展望」 大阪府済生会富田林訪問看護ステーション
～南河内ブロック内アンケート調査から～ 山下 智寿

■ ■ グループディスカッション



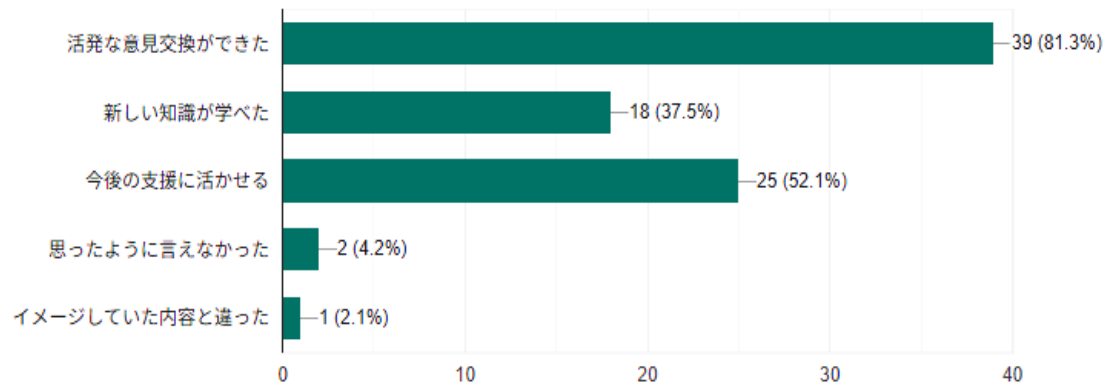
グループディスカッション 【やりたいことが見えてきた】

- 退院支援カンファレンスは全グループで重要性を実感
- 本人と家族、双方の思いをくみ取る姿勢と関係構築が重要
- 情報共有はリアルでもICTでも柔軟に行う必要あり
- 緩和ケアの視点を在宅にも広げるため、医師・多職種連携を強化
- 「在宅でも可能」と思ってもらえる支援体制と情報提供が鍵

アンケート結果

3、グループディスカッションについて

48 件の回答





2回目 8/27(水)

目標人数：35名

参加人数：36名

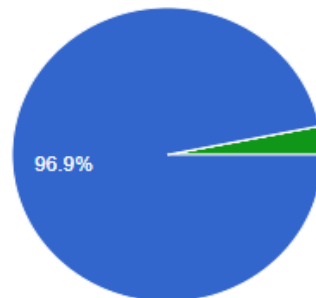
○緩和ケア認定看護師による講義

「目標をつなぐACP」

- 何のために治療を頑張るのか、の確認は大切だなと思いました。
- とても勉強になりました。その人それぞれの人生があり、考え方があるのだと改めて認識しました。

本日の講義内容はいかがでしたでしょうか

32件の回答



興味の持てるもの
だった96.9%

- 興味の持てるものであった
- 興味の持てないものであった
- 興味はあったが、期待外れであった
- 興味はなかったが、話を聞いて興味をもった



2025年度

終末期を考える

大阪府訪問看護実践研修事業
教育セッション事業

8月27日

目標をつなぐACP

講師：大阪府済生会富田林病院
緩和ケア認定看護師 池野 聡美

10月22日

在宅終末期ケアにおける 作業療法士の関わり

講師：富田林訪問看護ステーション
作業療法士 橋本 博史

12月24日

浮腫に対する 理学療法士の関わり

講師：富田林訪問看護ステーション
理学療法士 前田 和輝

研修時間

14時00分～14時30分

会場

富田林病院2階講堂

対象

訪問看護ステーションに
勤務する管理者・スタッフ

お申し込みは

MCSでお申し込み下さい

お問い合わせ先

大阪府済生会富田林訪問看護ステーション

〒584-0082 大阪府富田林市向陽台1丁目3番36号
TEL.0721-29-4425 担当：山下



3回目 10/22(水)

目標人数：35名

参加人数：49名

○「在宅終末期ケアにおける 作業療法士の関り」

当ステーションに勤務するOTより講義

- OTの終末期の関りは、知られているようで知らないことが沢山。
- 2018年OTの異動時「身終末期のリハビの介入」を聴き、私自身「何のために・・・」という疑問がいっぱいだった。
- 2021年～当ステーションにおいて終末期の介入を開始。
- 以後、終末期の50%の方にリハビリ介入し、協同できている。

がんの在宅療養とリハビリテーション

リハビリテーションは運動というイメージが強いですが、人生のどの瞬間においても、その人が自分らしく生きることを支援します。

1. やりたいことを一緒に考え、実現に向けて一緒に取り組みます。

これまで行ってきたこと(趣味等)や、今だからやりたいことが行えるように生活環境を調整したり、ご家族を含めたチームで協力して取り組みます。

2. 無理のない範囲で、自分の事が自身でできる方法を提案します。

移動や、身の回りの生活動作などができるだけ自分でできるように、無理のない動き方の指導や、生活環境の調整、福祉機器の利用の提案をさせていただきます。

3. 介助する側もうける側も安楽な、介助方法を提案します。

体の状況に応じて、介助のコツの提案や、福祉機器利用の提案を行います。

4. 可能な限り、安心して過ごすことができるように支援します。

楽に過ごせる身体を保つためにリラクゼーション・ストレッチ・マッサージの実施や、状況に応じて楽な姿勢の取り方や軽い体操指導などを行います。また、クッションの置き方や適した車椅子の選定など環境調整を行います。



4回目12/24(水)

目標人数： 35名
参加人数： 39名

○「浮腫に対する理学療法士の関り」

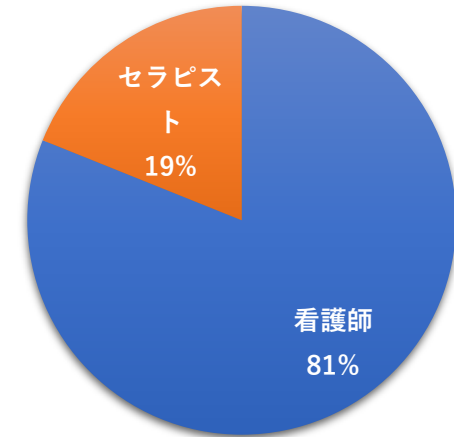
当ステーションに勤務するPTからの講義

- 先ほどのOTと同様、終末期ケアの対象者で、浮腫のある方は多く、参加者の中にもセラピストがおり効果的と評価した。

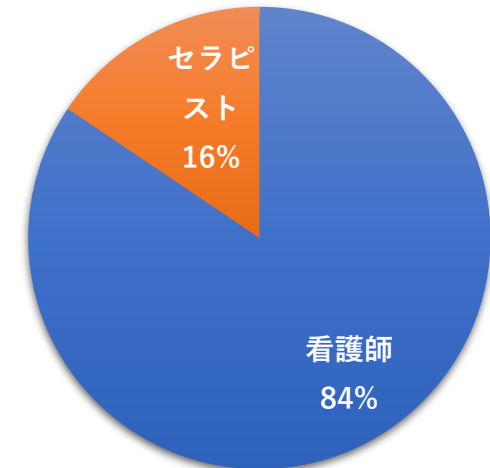
アンケートより

- 基礎から学び直すことができ、全体的に分かりやすい内容であった
- 包帯の巻き方、保湿、圧迫について、動画や症例提示が役立った
- 浮腫のある利用者が多く、今後のケアに活かしたい
- マッサージや圧迫について、スタッフ間で注意喚起・声かけを行いたい
- 浮腫への介入は看護師だけでなく、理学療法士・作業療法士も対応可能であることを理解できた
- 今後は療法士とも連携しながら浮腫ケアを行いたい

職種を教えてください



職種を教えてください





研修事業全体を通しての学び

○今回は、終末期ケアに着目し、医師・看護師・認定看護師・作業療法士・理学療法士といったいろいろな職種から講義内容検討頂き、すべての研修を対面式の集合研修で行った。顔の見える環境で、休憩時間や研修前後の対話など、集合研修ならではの効果があった。

○アンケートの意見で、「今後の実践に活かせる」との意見が多く、終末期ケアは訪問看護の仕事内容には必ず含まれる内容であり、新しい発見があったなど、うれしい意見が多かった。

3.府民への相談事業

11/23(日)

藤井寺市民祭りに出店

○府南支部の職能委員を担い、教育ステーション事業や研修など広報の機会とした。

看護協会と協賛し大盛況だった。訪問看護協会より、旗やテーブルマットもお借りし、訪問看護のアピールは効果的だった。

○健康チェックには皆さん関心が高く、一時長蛇の列になった。ACPについても少しですが話す機会となった。





4.訪問看護体験研修事業

2025年度教育ステーション

2025年5月吉日

2025年度大阪府訪問看護実践研修事業 教育ステーション事業

南河内ブロック
大阪府済生会富田林訪問看護ステーション

訪問看護ステーション体験研修のご案内

このたび、大阪府済生会富田林訪問看護ステーションは大阪府の委託を受け、教育ステーションとして訪問看護の体験研修を実施することになりました。

この研修は、訪問看護に関心がある専門職を対象として、同行訪問や手技演習、カンファレンスや勉強会等への参加など、お持ちの経験、知識、技術に応じた実践的な体験研修を行うものです。

訪問看護に関心をお持ちでしたらどなたでも歓迎いたしますので、ご参加お待ちしております。

【対象者】

- ・訪問看護に関心ある看護学生
- ・スキルアップのために、他の訪問看護ステーションの実践を体験したい訪問看護師やセラピスト
- ・訪問看護ステーションの管理者の役割や業務について学びたい看護師
- ・介護職や医療機関の看護職等で、連携の質向上のために訪問看護の体験や研修を受講したい方

コース	日時	日数	主な内容
看護業務コース	8:45~15時	3日まで可	・オリエンテーション・訪問同行・担当者会議・カンファレンスなど
管理業務コース	8:45~15時	1日	・オリエンテーション・訪問同行・退院前カンファレンス・往診同行など

【申し込み方法】

申し込み書に必要事項を記入の上、FAXにてお申し込みください。

【受講の決定】

お住いの近くのステーションをご希望あれば、相談・調整してみます。
申し込み多数の場合は抽選となります。

【申し込み・問い合わせ先】

大阪府済生会富田林訪問看護ステーション 担当 山下
電話 0721-29-4425 FAX 0721-29-4459
〒586-0082 富田林市向陽台1-3-36

看護業務コース 9名
病院看護師2名
クリニック看護師1名
新設訪問看護職員3名
近隣病院 3名

管理業務コース 4名

クリニック看護管理者 1名
近隣ステーション管理者 3名

○たくさんの質問事項を考えてこられ、聞きたいことを相談できる機会になりとてもよかったという声が聞け、自分にとってもやりがいのある体験となった。

○地域によって、在宅医との連携方法など違うため、次年度は地域別に新任の管理者が相談できるようブロック内で協力体制を整えたいと考えている。



5.電話相談事業

2025年度大阪府訪問看護実践研修事業 教育ステーション「電話FAX相談Q&A事業」

訪問看護「教育ステーション」による 電話・FAX相談を開設しました！

＜ケアマネジャー・その他専門職の皆様へ＞

下記の教育ステーションでは、訪問看護師が、ケアマネジャーさんや
その他専門職の皆様の医療・看護に関するご相談に対応しています。
どうぞお気軽にご活用ください！

5月～1月末
実施中。お気軽
にご活用下さい



たとえば、こんな相談をお受けします

- 訪問看護等の医療系サービスの導入方法
- 訪問看護や訪問看護に関連する制度について
- 在宅療養に向けて必要となる医療的ケアや環境調整
- 他職種（医師等）とのスムーズな連携方法
- 利用者の医療ニーズのアセスメント
- 家族・介護者への介護指導や支援の必要性の判断 ……など

相談
無料

大阪府済生会富田林訪問看護ステーション
(南河内ブロック教育ステーション)

相談日 月～金 10:00～16:00

電話：0721-29-4425

○不在の時がありますので、できるだけFAXご利用ください

FAX：0721-29-4459

○FAX相談用紙裏紙をご使用ください

※ご相談内容は、事業報告書等に掲載する場合がございますが、ケアマネジャーの皆様や
ご利用者様の個人情報が特定できる形で公表することは一切ございません。

大阪府済生会富田林訪問看護ステーション（担当：山下）
〒547-0044 大阪府富田林市向陽台1-3-36
TEL 0721-29-4425 FAX 0721-29-4459

- ・目標件数：17件/実件数：20件
- ・相談内容：
 - 報酬関係11件
 - 実務相談3件
 - 指示書/記録関係6件

評価・課題

○直接の電話の方が色々と内容確認はできるが、どうしても時間がとられるため、FAXの対応にした方が落ち着いて内容確認することができると感じた。
4月初日に電話があったときは、相談する機会を待っていたのかとも感じ、やはり身近で相談できる窓口は必要と感じた。



6.コンサルテーション事業



本事業は、各分野の専門職に電話相談、同行訪問を依頼することができます。お気軽にご相談ください。



例えば

・がん看護、ターミナルケアなど
・創傷 ・小児科 ・精神科
・運営管理のこと



対象

南河内ブロック内の訪問看護ステーション



方法

電話相談、対面、同行訪問にて対応

お困りの内容に応じて、協力ステーションと協働し対応致します。

電話：0721-29-4425

FAX：0721-29-4459

お問い合わせの際には「コンサルテーションの申込相談」とご連絡下さい。

大阪府済生会富田林訪問看護ステーション

〒584-0082 富田林市向陽台1-3-36 (担当：山下)

電話サポート

目標回数：3回/実回数0回

対面サポート

目標回数：0回/実回数1回

サポート内容：管理者業務体験を受けた管理者から希望あり、母体病院との連携、スタッフ指導、マニュアル作りなどの説明。

効果：コンサルテーションを実施することで、自事業所の運営状況の振り返りや、指導マニュアルのバージョンアップになった。



目標の評価・課題

1. 終末期ケアに着目し、ブロック内の訪問看護ステーションの受け入れ状況、医療ケア・看護ケアの現状把握を行い、ブロック内のステーションの意識の向上を期待。

○事前のアンケート調査を実施したときに、協力が少ないことに残念に感じた。ステーションで頑張っていることを知ってもらう機会になればと考えたが、研修自体の集まりも少なく研修の開催のタイミングなど課題は多い。

2. ACP関連の研修にスタッフとともに参加し、実際の利用者との関りの場面で活用できる。

○自部署での評価としては、今年度看護研究を通して、ACPについて現状と今後の課題について取り組んでいる。終末期ケアの対応についても担当者を中心に本人の思い家族の思いを個別にとらえ、看護師としての対応をどうしていくか、実施、記録、発信ができるようになってきている。

全体：電話相談や訪問看護体験研修は新設のステーションや、医療機器を扱う機会が少ないステーションにとっては体験する機会となり地域全体の訪問看護の質の向上につながると感じた。しかし、計画的に実施していくことの難しさも感じた。もっと簡易に実践できるような工夫を考えることが課題と感じた。



ご清聴
ありがとうございました

